

国際化学肥料ニュース（2023年1月）

肥料業界の2021年1月動態

- * 1月5日インドIPL社は今年初の尿素国際入札を発表した。購入予定数量60万トン、1月23日締め切りと開札する予定である。ただし、今までの尿素入札と異なり、購入数量が60万トンと少ないうえ、輸入時期も3月1日から2024年2月までの12か月間に毎月4~6万トンずつ船積みの長期契約で、応札資格も尿素メーカーに限定される。その理由は2022年までにインド国内の尿素生産能力が大幅に増強され、輸入依存度が大幅に下がり、ほぼ国内自給できるようになった。これにより、尿素的国際貿易局面が大きく変わり、世界の尿素需給関係は供給過剰に陥る可能性がある。
- * 2023年1月最初の1週間（1月2~8日）はEUの天然ガス価格下落とインドの尿素輸入減少の情報により、弱気のスタートとなった。ほとんどの市場参加者は、クリスマスと新年の休暇から市場に戻ってきたが、例年通り活発の取引がなく、値下げ圧力が一層強まっている。特に大需要家のインドとブラジルの需要が低迷で、各地域の尿素価格は下落が続き、エジプト産大粒尿素的FOB価格が1年ぶりに500ドル/トンを下回って、495ドル/トンとなったほか、中東と東南アジアのFOB価格も約440ドル/トンまで下落した。
- * 2023年の年始に供給量の増加とEU天然ガス価格の下落により、国際アンモニア市場が圧倒的な弱気ムードから始まった。特にEUの主要な生産者がアンモニア生産量の増産に力を入れるため、EUのアンモニア輸入価格が今後数週間で急激に下落する可能性がある。その証拠として、EUへの輸出港タンパの1月積みの契約が前月比55ドル/トン下落したこととトリニダードの在庫量増加で現れている。また、中国はアンモニアが「法定検査」のリストに載っていないため、輸出が厳しく規制される尿素代わりにその輸出量が急増し、2022年1~11月のアンモニア輸出量が20万トンを超え、2021年同期より9614.65%増加した。
- * 中国りん酸化肥料工業協会の資料によれば、中国政府の厳しい化学肥料輸出規制により、2022年中国のMAP生産量が18.01%減の1005.64万トン（P₂O₅換算、以下同）、DAP生産量も12.40%減の1237.47万トンに留まり、この数年間の最低値である。
- * 1月3日のロイター通信の報道によれば、インド政府は2023年4月からの新年度に食糧と化学肥料の補助金を26%削減して3.7兆ルピー（約446億ドル）に抑える予算を編成している。財政赤字を削減するため、2023~2024年度の食糧補助金は今年度の2.7兆

ルビーから 2.3 兆ルビー、化学肥料補助金が 2.3 兆ルビーから 1.4 兆ルビーに減らす予定である。

- * ネパールからの報道によれば、インド政府から送ってきた化学肥料は 1 月 6 日から続々ネパールに到着した。2022 年 2 月 28 日インド政府とネパール政府が協定を締結して、2023 年からインド Rastriya 社 (RCF) はネパールの国営農業資材社 (ALCL) に化学肥料を供給する内容である。その期限は 5 年間で、2027 年までとされる。これはインドが中国の南アジアへの影響力を抑えるために近隣国に対して色々優遇措置を与える。昨年からすでにスリランカに尿素とりん安を供給した。
- * 1 月第 2 週 (1 月 9~15 日) の尿素国際相場は需要がないため、7 週間連続下落し、2021 年 9 月のレベルまで下がってきた。エジプトを含め、主に中東のいくつかのサプライヤーはいまだに 1 月生産分の買手を見つかっていない。そのため、エジプト産大粒尿素の FOB 価格が 500 ドル/トン未満となり、アメリカの FOB Nola 価格が週末には 375 ドル/トンまで下がって、この 2 年間の最安値となった。
- * FAO (国連食糧農業機関) のデータによれば、2022 年ロシアの化学肥料輸出量が 10%以上減少したが、価格の高騰で輸出金額が大幅に増加した。1~10 月のロシア化学肥料輸出総額は前年同期より 70%も増加し、167 億ドルとなった。
- * 1 月 5 日インド IPL 社が行った尿素国際入札は、尿素国際相場の急速な下落により、締切と開札日を 1 月 23 日から 2 月 1 日に延長することを発表した。
- * 中国税関の速報によれば、2022 年 12 月の中国化学肥料輸出量 244 万トン、その内訳は尿素 53 万トン、硫安 117 万トン、DAP25 万トン、MAP14 万トン。2022 年の 1 年間に中国化学肥料輸出量が 24.6%減の 2486 万トン、金額が 1.6%減の 114.7 億ドル。その内訳は尿素が 46.5%減の 283 万トン、硫安が 17.1%増の 1244 万トン、DAP が 42.8%減の 358 万トン、MAP が 46.9%減の 201 万トン。
2022 年 12 月の中国化学肥料輸入量 68 万トン、そのうち塩化加里 63 万トン、NPK 化成肥料 1 万トン。2022 年の 1 年間に化学肥料輸入量が 1.7%減の 894 万トン、金額が 79.7%増の 49.14 億ドル。その内訳は塩化加里が 4.9%増の 793 万トン、NPK 化成肥料が 42.1%減の 70 万トン。
- * 1 月第 3 週 (16~22 日) の尿素国際相場は需要の回復が見られず、東半球と西半球ともメーカーの 1~2 月生産量がまだコミットされていないため、FOB 価格を徐々に下げていき、16 か月ぶりの安値まで下落した。

多くの関係者は、春シーズンが近づくとつれてヨーロッパから需要が生まれることを望んでいたが、今年はそのとはいかない。EU の天然ガス先物価格が今週さらに下落しているため、バイヤーは生産コストの低下により、尿素や硝安の価格も引き下げを期待している。すでにエジプトでは大粒尿素の FOB 価格が 450～455 ドル/トンで売り出した業者があり、前週より 20～25 ドルも値下げした。東南アジアでも大粒尿素の FOB 価格が 1 月初頭より 35 ドルも安くなった。

* インドは食糧安全保障を強化するために、モロッコの OCP 社と革新的な施肥ソリューションを共同で推進し、次の 1 年間に OCP 社から最大 170 万トンりん酸肥料を購入する契約を締結した。

* 中国税関の貿易データによれば、2022 年の化学肥料輸出量が 24.6%減の 2486 万トンで、硫安を除き、輸出に「法定検査」が必要な尿素、DAP、MAP、塩化加里などはそれぞれの輸出減少幅が 40%以上である。各主要肥料の輸出量は表に示す。

品名	2022 年輸出量 (万トン)	2021 年輸出量 (万トン)	輸出量減少率 (%)
硫安	1244.60	1064.97	16.9
尿素	283.13	529.47	-46.5
DAP	357.90	625.47	-42.8
MAP	194.67	378.59	-48.6
塩安	36.03	121.69	-70.4
硝安	2.79	6.91	-59.6
重過りん酸石灰	70.97	116.81	-39.2
過りん酸石灰	47.95	63.30	-24.2
NP 化成肥料	97.75	123.24	-20.7
NPK 化成肥料	63.41	72.45	-12.5
硝酸石灰および硝酸カルシウム・アンモニウム	8.19	53.13	-84.6
塩化加里	2.66	22.55	-88.2
硫酸加里	7.80	22.23	-64.9
肥料用硝酸加里	0.57	3.67	-84.5

ほかに 2022 年のアンモニア輸出量が 23.82 万トンである。

* 1 月第 4 週（1 月 23～29 日）の世界窒素肥料価格は 2021 年第 2 四半期の水準まで下落した。最大買手のインドは今シーズンの需要が国内生産と在庫で満たされているように見えるうえ、価格の高騰で 1 月の国内窒素肥料販売量が以前の予想を下回っていることを示唆する報告もある。そのため、次の尿素国際入札はさらに遅れる見込みである。

アメリカでは尿素的需要は国内生産量の増加と消費量の減少によりまだ現れていない。南米地域ではオフシーズンにあり、バイヤーは尿素的購入と輸入に急がない。

買手不在で、ほぼすべての主要輸出地域での 2 月出荷分の尿素が余っているため、中東尿素は昨年同期の FOB720 ドル/トンから 400 ドル/トン未満となり、エジプトの大粒尿素は 2022 年 9 月の FOB900 ドル/トンを超えた価格から先週の 430 ドル/トンに下げても買手を見つからない。

アンモニアについても、天然ガスの価格下落により、EU アンモニアのベンチマーク価格が先月より 185 ドルも安く、CFR790 ドル/トンまで下落した。

- * 1 月第 5 週（1 月 30～2 月 5 日）の窒素肥料国際相場は引き続き下落している。主要輸出地域の尿素 FOB 価格が軒並み 400 ドル/トン以下に下がった。アンモニアも避けられず、CFR EU 価格が前週より 40～50 ドルも下落して、800 ドル/トン未満となった。ただし、中国産カプロラクタム副産硫酸が昨年 10 月以来に初めて値上げに転じた。
- * 2 月 1 日、ロシア国家統計局（Rosstat）が 2022 年の化学肥料生産データを公表した。2021 年に比べ、2022 年の化学肥料生産量が 11.3%減の 2350 万トン（N、P2O5、K2O 換算、以下同）。加里肥料生産量の減少が一番激しく、32%も減少して、730 万トンしかない。りん酸肥料が 1.1%減の 440 万トン、窒素肥料が逆に 3.5%増の 1180 万トン。ただし、アンモニア生産量が 14.4%減の 1700 万トンとされている。
- * インド最大の加里肥料輸入商社国営 Indian Potash Ltd.（IPL）社の社長 P.S.Gahlaut 氏は新聞社のインタビューに於いて、肥料輸入価格の高騰で 2022～2023 年度（2022.4～2023.3）の加里肥料消費量が約 40%減少し、前年度の 500 万トンから 300 万トンに減少する可能性があるかと答えた。また、2022 年 8～12 月の 5 か月間にインドの加里肥料消費量が約 50%も減少して、NPK 化成肥料消費量も 20%減少したと述べた。
- * インド政府は 2023～2024 年度の化学肥料補助金をほぼ確定した模様。全量輸入に依存する加里肥料に対して、補助金を若干引き上げるが、ほぼ自給できる尿素に対しては補助金を大幅に引き下げ、りん酸肥料に対しても補助金を引き下げる。

大手各社の営業業績

- * 中国青海塩湖社は 2022 年の塩化加里生産量が 580 万トンに回復して、前年度より 16%も増加したと発表した。加里相場の高騰の恩恵を受け、塩化加里販売量 493 万トン、純利益が 235%増の 150 億人民元（約 22 億ドル）。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * 中央アジアのキルギスタンは初の化学肥料工場の建設を始めた。当該プロジェクトはキルギスタンの Nookat に生産能力 50 万トンの腐植酸入り尿素と化成肥料の工場を建設

し、総投資額 2.6 億ドル、中国企業が全額投資して、稼働後 30 年間に独占運営する形で、その後はキルギスタン政府に無償渡すという内容である。

* カザフスタンの **KAZAZOT** 社はマンギスタウ州アクタウに新しいアンモニアと尿素、硝酸、硝安工場を建設することを発表した。この工場は、年間 66 万トンアンモニア、57.75 万トン尿素、39.5 万トン硝酸、50 万トン硝安を生産する能力を計画して、総投資額 10 億ドル。完成すれば、カザフスタン最大の複合肥料生産複合施設となる。

* イギリスの **Kropz** 社は南アフリカの西ケープ州にある **Elandsfontein** りん鉱山の稼働が正式に始まったと発表した。すでに 2022 年 12 月に 3.3 万トンの精製りん鉱石を初めて出荷した。当該プロジェクトは約 1 億 6000 万ドルを投資して、年間 100 万トンのりん鉱石を採掘、選鉱を行い、高品質のりん鉱石を生産する能力を有する。

その他

* 1 月 10 日ロシアスプートニク社の報道によれば、国連事務局のスポークスマン **Stephane Dujarric** 氏は国連がロシアの食糧と化学肥料の輸出には経済制裁を受けず、輸出ルートと船などの問題解決に引き続き努力すると述べた。

* オーストリアの **Borealis** 社はベルギーの化成肥料子会社 **Rosier** をトルコの **Yildirim** 社に譲渡した。また、今年第 1 四半期にさらに窒素肥料事業をチェコの **Agrofert** 社に譲渡する予定である。**Borealis** 社は EU の大手肥料メーカーで、オーストリアとフランスに工場があり、ヨーロッパに約 60 の肥料倉庫を持ち、年間約 500 万トン肥料を販売している。

* 中国の **Mintal Hydrogen Energy Technology** 社は内モンゴルの包頭市に初の風力発電を利用するグリーンアンモニア工場を建設することを発表した。フェーズ 1 の生産能力は 1800 トン／日、2025 年に完成し、稼働が始まる計画である。技術担当はデンマークの **Topsoe** 社が選ばれた。

* 1 月 17 日、中国国家统计局から人口と食糧に関する統計データを公表した。主な内容は下記の通りに纏めた。

1. 2022 年末の人口数は 14 億 1175 万人、前年より 85 万人減少して、61 年ぶりに人口減少となった。しかし、2013～2022 年の 10 年間で中国人口が 4449 万人増加して、人口増加率が約 3%である。なお、国連の 2022 年世界人口展望レポートによれば、過去 20 年のインド人口が 3.6 億人も増加して、2023 年に人口数が中国を超え、世界人口最多の国になる。

2. 2022 年中国の食糧生産量が 0.5%増の 6 億 8653 万トンに達し、その内訳はコメが 2.0%減の 2 億 849 万トン、小麦が 0.6%増の 1 億 3772 万トン、トウモロコシが 1.7%増の 2 億 7720 万トン、大豆が 23.7%増の 2028 万トン、油糧作物が 1.1%増の 3653 万トン。2013 年～2022 年の 10 年間中国食糧生産量が 5605 万トンも増加して、その増加率が約 9%である。
3. 2022 年中国の食糧輸入量が 1.4 億トンに達し、2022 年国内食糧生産量の 21%に相当する。そのうち小麦輸入量が 1.9%増の 996 万トン、トウモロコシが 27.3%減の 2062 万トン、コメが 24.8%増の 619 万トン、大豆が 5.6%減の 9108 万トン、モロコシが 7.7%増の 1014 万トン、大麦が 53.8%減の 576 万トン。
2013～2022 年の 10 年間に中国食糧輸入量が 6042 万トンも増加して、その増加率が約 70%である。そのうちコメの輸入量が 176%増、小麦の輸入量が 81%増、トウモロコシの輸入量が 533%増、大豆の輸入量が 437%増、大麦の輸入量が 146%増、モロコシの輸入量が 839%増である。
4. 2022 年中国一人当たりの食糧消費量が 486kg に達し、食糧安全保障ラインの 400kg /人を超えた。2013～2022 年の 10 年間、中国人口一人当たりの食糧消費量が 25kg を増加して、その増加率が約 5%である。